



右／大風のヘッドマーク付き電車は、埼玉県を飛び出し、東京、神奈川、千葉まで駆け抜けました。2013年4月下旬から5月にかけて期間限定。左／年末年始には、東京スカイツリーに大風をモチーフにした風が展示されました。訪れた観光客の絶好の撮影スポットとなり、「東京スカイツリータウン」に華を添えました。

春日部を飛び出し、世界へ羽ばたけ！

“春日部”をPRする大風たち



国道16号線に面した庄和総合公園内に立つ大風の原寸大の看板です。看板下の人と比べると、その大きさは一目瞭然です。



気象予報士
平井信行さん

かすかべ親善大使の平井さん、内山さん。平井さんが手にするサイン入りの飾り風は、大使8名分揃って「ぶらっとかすかべ」にて展示しています。内山さんのV8達成祝賀会でも、壇上には風が展示。



WBAスーパーフェザー級
チャンピオン
内山高志さん



“食べられる”大風たち。いずれも、かすかべフードセレクション認定商品。上から、上昇大風せんべい(味好堂さん)、春日部大風さぶれ(ダルトワさん)、春日部大風焼(広島鳥お好み焼き 七夜さん)。

Episode2

大風の不思議

その1

大風には、現在「赤」「緑」「白」の3色が使われている。右上の赤色は太陽、左下の緑色は大地、真ん中の白色たすきは江戸川の流れを表現しているそう。かつては、緑ではなく青色だったとか？

その2

祭りの朝、なぜか大風の前で揃って「豆腐」を食べる習わしがある。豆腐にあやかって、「ぶつかつてもケガをしないように」「豆腐で清める」などの諸説が存在する。



Episode1

風二色の人生です

春日部市「庄和大風文化保存会」／小川寛さん

小川さんの人生は風一色だ。小学5年生から風あげに参加して以来、風に夢中。50年にわたり風人生を歩んできた。自宅には、全国各地の風にとどまらず、世界各国の風まで飾られている。

一昨年まで高校の英語教員だった小川さんは、授業中に風話を脱線することもしばしば。ついに、校内に風話を創部してしまっただけでなく、今でも当時の生徒の結婚祝いにも風を贈るそう。

風を通じて交流は海外にも広がっている。得意の語学を生かし、これまでカナダやオーストラリアなど10か国で国際交流を図ってきた。

そんな小川さんに今後の目標を尋ねた。「世界各国の人たちと風を通じて交流したい。特にヨーロッパの風を知りたいですね」。小川さんの風人生はまだ続く。



自宅には国内外の貴重な風が数多くある。